
宇宙党

三代渡吉

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宇宙党

【Nコード】

N5617D

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

突然宇宙から宇宙人が現れて、日本に上陸した。彼等は宇宙党を組んで、国会に乗り込んでくる。

国会で、新たな法案を成立させようと、与党と野党が激しく戦っていた。

でも、内容はただお互いを野次るだけで、一向にお話が進まない。そんな時……彼等はやってきた。

日本語になんとか訳されたその彼の名前を呼ぶために、議長は冷や汗をダラダラ流しながら、それを読みあげる。

「で、では、宇宙党……ぱ、パプーリャペノツ……じゃなくてペノチューノリさん」

バキューーン。銃弾が放たれて、国会は騒然となった。

議長はすぐに係員によって片付けられてしまい、次の議長が壇上にあがってくる。

先程の議長より若そうな外見にくわえ、ちょっと荒々しい外見に見える。

「失礼。改めて、パップツ……」

バキューーンバキューーン!! 二人目が殺されてしまった。また議会は騒がしくなった。

今度は手際よく二代目の議長が片付けられて、次の人間が入ってくる。今度はとても冷静そうな老人だ。

「それでは改めまして。パプーリャペノチュリノンさん。どうぞ」

ようやくともに自分の名前で呼ばれ、パプウさん（略称）は嬉々として立ち上がった。

「……………」

そして、今回の議題に対する自分の意見を、スラスラスラと、とても堂々と訴えた。

彼の眼差しはとても真剣で、政治に対する意欲が他の中年政治家よりよく見られた。

すべてを説明し終わると、周りからは絶大な拍手がこちらから沸いた。パウさんは照れながら、自分の席へと戻る。

賞賛される彼を、少し遠めに見ていた議員二人は、不服そうに拍手しながら話し合う。

「なあ、中杉くん」

「なんですか？」

「彼は何といつてこんなに賞賛されているんだ」

「わかるわけないでしょう。向こうは我々の言葉を理解しているようです、こちらは全く訳せないんですから」

「もう一度聞けど、何でこんなに皆から盛大に拍手されているのだね」

「撃たれたいのならどうぞ反論してください」

彼はそう忠告されて、冷や汗は垂らしながらムスツと黙った。相変わらずパウさんは嬉しそうだった。

数時間後、彼の案を取り入れた（らしい）法案は通り、すぐに実行されることになった。

最初はいきなり実行された案だったために戸惑いもあったが、パウさんの尽力によつて、予想以上にそれは浸透していった。

すると、今までどん底にあった日本経済はうなぎ登りにあがっていき、不景気で嘆いていた日本が、まるで枯れた花に水を与えられたように元気になったではないか。

それがわかった途端、日本市民達は、宇宙党を絶賛した。右も左も宇宙党万歳の旗で埋め尽くされていた。

旗から見ていた中杉は、今度は先輩議員に逆に聞いてみた。

「一体、何をやってこんなに褒められているんですか？」

「それがね、サッパリわからないんだよ」

「は？」

「わからないのに景気が良くなっている。不思議な話だ、日本はま

たバブルに突入してしまうんじゃないかというくらい発展してる」

「……………」

「何をやったか知らないが、一秒単位でとんでもない借金を生み出していた時代とは、もう訳が違うんだ。国民も納得してしまった」

「俺達ってなんなんでしょうね」

そんな疑問を持ちながら、宇宙人の闊歩を彼等はじっと眺めていた。よく見たら、住民も徐々に支配されていた。

与党・自党本部

このままでは、宇宙人にあるうことか政権を許してしまうことになる。このまま宇宙人政治参加法が成立すれば、日本は終わりだ。

現在の首相、複島さんが、頭を抱えて、もう薄くなった髪から露出した頭皮を、地面に擦り付けていた。

傍から見て阿呆としか思えないことをしないと、この打開策が思いつかないと勘違いするほど、彼は追い詰められていた。

そんな時、トントンという一つのノックがした。

「複島さん」

いきなり入ってきたのは、主社党の党首、大佐和だった。

「大佐和さんじゃありませんか」

「この度はとんでもないことになりました」

「はい……私は一体どうすれば良いのか、わからなくなりました」

二人は、一緒に机に頭皮をグリグリと擦り付けて、知恵を絞ろうとしていた。

宇宙人には、否、他人にも理解できないような行動だった。

「こうなったら」

「どうしました、複島さん」

複島さんは、がちりと大佐和さんの手を掴んで、こういった。
「大連立しましょう」

政治闘争は、今ここから始まったのである。

（後書き）

スマブラ予約受け取りまでの暇つぶし（不眠）のため、かなり手抜き気味に書いた作品。それでも一応何が言いたいかはわかるように出来たはず。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5617d/>

宇宙党

2010年11月4日13時33分発行